



題字 井口 文章  
再刊 第277号  
印刷・発行  
錦城高等学校新聞委員会  
編集室 2018

みんなで作る  
錦城高校新聞

# 自分で拓く未来への道



## 1・2年生進路を考える

10月3日(水)、1年生は進路講演会、2年生は学部説明会がそれぞれ行われた。1・2年生は外部の講師の方を錦城に招き、大学や学部の決め方のポイントや学んだ。外部の人から進路について話を聞く少ない機会に、生徒は興味津々な態度で話を聞いて傾けていた。



学部ごとに分かれて、大学の講師から詳しい話を聞く2年生

一面：進路の説明会で将来と向き合う  
スキー委員会活動開始  
二面：長野の観光名所、松代の魅力紹介！  
地元住民のボランティアガイド

## 【2年生・学部説明会】

「好きな学びを見つけよう」  
電気・電子・通信工学の講義は芝浦工業大学入試部入試課の秋山力洋さんが行った。電気工学は電気の性質を研究して応用に結びつける学問で、電子工学は電気をスピーディーな情報伝達手段に活用する学問。通信工学は多様な通信手段を幅広く学ぶ学問で、この3つの学問はハードウェア(電気機器)に、さらに通信工学はソフトウェア(コンピュータプログラム)に活かされているという。学部選択に関する話では、一括りにされやすい理学と工学の違いについて説明がされた。それぞれに特色があり、その上で「自分の好きな『学び』を見つけよう」と秋山さんは語った。

「学ぶ環境も大切」  
東京経済大学コミュニケーション学部准教授の松永智子さんは、社会学を「世間について語り合う学問」と説明した。

「社会学者の数だけ社会学がある」といわれるほど研究対象が広い社会学。自由な学びを見つけていくという。説明の途中には松永さんの「なぜ社会学に興味を持ったのか」という問いかけに、生徒がひとりずつ答えていく場面が何度もあった。社会学は先生により研究対象が多岐に渡るため、自分対象が多岐に渡るため、自分の学びたい分野をしっかりと見つけることが大切だと松永さんは話す。また大学選びの際には、大学の規模なども学習に大きく関わってくるため「田舎や都会など、学ぶ環境から進路先を決めていくのも良いと思います」とアドバイスした。

## 【1年生・進路講演会】

「自分軸を決めて」  
体育館では、56回生を対象に株式会社マイナビ進路サポートの平野喜美代さんによる進路講演会が行われた。平野さんは「主体性」という言葉が多く登場した。進路の選択でももちろん、受験やその先の社会でも主体性が求められる場面は多くある。平野さんは、主体性を身に付けるために出来ることとして「先生の指示がなくても、自分で考えて行動すること」を挙げた。

野さんは進路選択をする上でポイントとして2つ紹介した。1つは大学への進路選択について知識を増やすこと。偏った知識や思い込みでは正しい進路選択はできない。多くの学部、学科を調べようというアドバイスをくれた。

学部を選ぶときには「何を学びたいか」が重要になると、どの講師の先生も話していた。すでに学部を決めている人も、まだ学部を決めていない人も、改めてこれからの学びと向き合おうという。

クラスメイト全員と担任・副担任のイラストを入れたことと『ウォーリーを探せ!』のように、楽しんでもらえるようなデザインにしたことがポイントです!

クラT最優秀  
2H  
(写真: デザインした橋本彩羽さん)

## 食堂マナーの見直しを

9月25日(火)、食堂の食器返却口前のスペースにある椅子の破損が発見された。食堂チーフの吉川康子さんは週明けの日の朝、掃除をしていたところ椅子の足が大きく曲がっているのを見つけたそう。「こういう破損は初めてです。事故で壊してしまったのなら言ってくれたらよかったですけど、気づかずに壊れてしまったのは、ねえ」と顔を曇らせる。吉川さんによると、以前は食堂のテーブルにクロスがかかっていた。しかし生徒によってクロスが針で穴を

「何でもまずは挑戦して」と語る平野さん

「選挙に興味を持ってほしい」と豊田くん

「何でもまずは挑戦して」と語る平野さん

「何でもまずは挑戦して」と語る平野さん

「何でもまずは挑戦して」と語る平野さん

「何でもまずは挑戦して」と語る平野さん

「何でもまずは挑戦して」と語る平野さん

## 大会報告

9月22日(土) 陸上部  
9月24日(月) 女子5000M  
8位 玉利麻祐(2J)

9月20日(木)~22日(土) 合唱祭実行委員会  
10月2日(火) 選挙管理委員会  
10月3日(水) スキー委員会  
10月4日(木) 図書委員会  
10月9日(火) 代議員会  
中央委員会常時活動中

生徒会役員  
立候補者&中央  
委員会一般委員  
募集中!

## 台風24号の被害

正門近くの雑木林では約15mの木が根本から倒れました。

▲バスケットの時に計が台風の暴風で落下し、壊れてしまいました。

▲バスケットの時に計が台風の暴風で落下し、壊れてしまいました。

## 選挙への意識を高めよう

10月2日(火)に選挙管理委員会が行われ、今年の生徒会選挙についての変更点が明らかになった。

委員長の豊田和樹くん(2D)によると、小平市から本物の投票箱を借りる予定だという。それに伴い、昨年まではクラスで集めていた投票用紙を、今年は放課後に生徒自身が投票箱に投票する。候補者のポスターを貼るというもう1つの案は現在検討中。今回の変更では実際の選挙に近づけることを意識しており、豊田くんは「選挙に対する意識を上げたい」と話した。昨年多かった無効投票を減らすためにきちんと説明を聞いて投票してほしいと語った。

「何でもまずは挑戦して」と語る平野さん

## むらさき草

今年の9月から10月にかけて、大変な自然災害が日本を襲った。祖父母が住む北海道江別市でも、台風21号に続いて北海道胆振東部地震が重なって深い爪痕を残した。停電していたため祖父母とも一時連絡がとれず、本当に心配した。9月30日(日)から10月1日(月)未明にかけて日本列島を縦断し、東京でも停電を引き起こした超大型台風24号。夜が明けて外を見ても、家の前は木が歩道に倒れて道を塞ぎ、歩道や車道に葉が散らばっていた。一方で、清掃されている部分もあった。早朝から木の葉を片付けてくれた人がいた、と母が話してくれた。錦城でも、割れた体育館の窓ガラスを、都民の日で学校は休みであったが、先生や当番の方が片付けてくれた。私は今回の台風もいつも通り過ぎ去ると思っていた。しかし、みんなのために動いてくれる人もいる。こういった災害の時にみんなのために高校生としてできることはなんだろうか。話は変わるが錦城生で、去年の冬休み、今年のゴールデンウィークと続けて東日本大震災の復興ボランティアに行った生徒がいるそう。それぞれ1週間、宮城県仙台市にある漁師の家庭でホームステイをしながら漁業ボランティアをしたという。元々、災害の復興ボランティアに参加してみたいと考えていたそう。自分たちは震災を過去の出来事と考えてしまいが、現地ではまだ震災の影響が大きいことを知り「震災を忘れてはいけない」と改めて実感したと話す。最初からボランティアをするというの難しさを、やってみると思っていたよりも実際に行動に移せる人は少ない。しかし、落ち葉の片付けなど身近なところからできることがある。また、高校生でも行動する気持ちがあれば復興支援に参加できる。私は冬休みを使って東部地震の復興に貢献したい。

「何でもまずは挑戦して」と語る平野さん



